行き先は。

うぃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
行き先は。

【Ｎコード】
Ｎ９４５８Ｌ

【作者名】
うぃん

【あらすじ】
ある夜のエドワードの物語です。

もうムリだなー
そう思ったから、俺は部屋を飛び出した。

行き先は。

あ～、イライラする。
ここ最近本気についていない。
2日も山を歩いて向かった村の赤い石の情報はすべてデマだったし、
街に下りてすぐ強盗に出くわすし、
突然降ってきた雨で接続部は痛むし、
報告書はぐしょぐしょになるし、
ばったり会ってしまったお偉いさんにはネチネチと嫌みを言われるし。
・・・・・・それに研究も行き詰まっている。

「くっそ！」

あぁ、もう堪えられない。っていうか無理。
とにかくこのイライラをどうにかしたくて、俺は部屋を飛び出した。
このままじゃ部屋を破壊仕掛けると思ったから。
あれ？なんか頭に血が上ってる割に、俺、冷静じゃん。

・・・・・いや、こうやって部屋飛び出してる時点でもう冷静なんかじゃないか。
アルが後ろで何か叫んでたけど、それも無視。
悪いな、兄ちゃんは暫く戻りません。

外に出てきたものの、特に行くあてもない。
どうすっかなー。まあいいや。
人の多い道は嫌だから大通りとは逆方向に走り出す。
思った通り人は少ない。そのぶん暗いけど、俺はそんなの気にしないし。
しばらく進んだ所で、急に呼び止められた。

「おぉ～いボウズ。こんな時間に何してんだぁ？」

「子供はもうお寝んねの時間ですよ～！」

「それともあれか？家出でもしてきたのか？金さえくれりゃあ俺達の所へ来ていいぞ！」

「ははははっ！そりゃあいいや！どうだボウズ？」

・・・やっぱり、どこにでもいるんだな。こーゆう駄目な大人って。
かまっててもも仕方ないから無視して進む。
そしたら3人の中で一番がたいの良い男が掴み掛かってきた。

「おいガキ！無視してんじゃねぇよ！」

「・・・放せよ」

「ぁあ？聞こえねぇな！」

あーあ、バカな奴。俺今めちゃくちゃ不機嫌なんだけど。
掴んできたその手を振り払い、腕を掴んで前へ投げ飛ばす。
本気でボコらなかったことを感謝しろよ。

「・・・まだ何か？」

「ひっ！わっ、悪かった！許してくれ！」

ったく、だらしねぇの。さっきまでの勢いはどこに行ったんだよ
腰を抜かして青ざめている大人を一瞥し、俺はまた走り出す。

もうだいぶ遠くまで来たな。この道は何度が通ったことがあったから知っていたけど、公園があることには気づかなかった。
すべり台と砂場とブランコが申し訳程度に置いてあるだけの小さな公園。
走りつづけてさすがに少し疲れたから、側にあったベンチに寝転んだ。

「すーー、はーー」大きく息を吸って、吐き出す。
冬の空気は冷たくて鼻の奥の方がつーんとしたけど、上がってしまった息を整えるため、何度かそれを繰り返した。
呼吸するたびにでる真っ白な息は、なんだかタバコの煙に見える。
ハボック少尉みたいだ。そう思ってクスリと笑った。

焦点を空へと移してみた。冬の澄んだ空気のおかげで星が綺麗に見

える。
リゼンブールほど良くは見えないけど、こんな夜空もいい。そんな事を考えながら、ポケットに手を突っ込んだ。

・・・・・あれ？何か入ってる。
不思議に思って取り出してみた。
・・・キャラメル？そういえば司令部に行ったときに中尉が渡してくれたんだっけ。
一つ包み紙を剥がして口に入れる。
うん、おいしい。程良い甘さで溶けるキャラメルは、たまった疲れをほぐしてくれるようだ。

そうだ、今度司令部に行くときには中尉に何かお土産を買っていこう。
ついでにウィンリィとばっちゃんのぶんも買って一度リゼンブールに戻るかな。そろそろメンテナンスに行かないと、またあいつに叱られちまうし。それじゃあ何を買っていこうか。ばっちゃんにはタバコだな。ウィンリィには、この前見つけたあいつ好みのお菓子でいいし。
問題は中尉なんだけど・・・
確か前に紅茶が好きだとか言ってたよな。よし決めた。中尉には茶葉にしよう。

買う物が決まって満足だ。キャラメルをもう一つ口に放り込んだ。
そういえば、さっきまであんなにイライラしていたのに、今はとてもスッキリとした気分になっている。
ははっ、俺って単純だな。

「よっと！」

勢いをつけて体を起こすと機械鎧がカチャリと鳴った。
そうだった、俺にはこんな所でへこたれて立ち止まっている時間は無いじゃないか。
すべてを取り戻すって誓ったんだ。
前に、進まなければ。

俺はまた走り出す。行き先はもちろん今回の宿。アルが心配して待っているはずだ。

「また怒られちまうなぁ」

苦笑して走るスピードを少しだけ上げた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9458l/

行き先は。

2010年10月14日23時06分発行